

電子情報部

情報技術を用いた国会議員への調査サービス・情報提供サービスの充実のほか、インターネットを通じて個人の端末や身近な図書館で閲覧できるデジタル資料の拡充を図るとともに、国内外の誰もが利活用可能な知識基盤の構築を目指します。
また、業務の基盤となるネットワークやシステムの管理を担います。

電子情報事業に係る企画・研究



デジタルで全ての国内出版物が読める未来を目指し、所蔵資料のデジタル化を推進するとともに、デジタル情報の長期保存等、国立国会図書館の電子情報事業に係る計画の立案や関係団体との調整を実施する。外部機関との連携協力を推進し、国の事業である多様なデジタルアーカイブの検索・閲覧・活用プラットフォーム「ジャパンサーチ」の開発・運用も担当する。「NDLラボ」では次世代の図書館システムを開発するための調査研究や実験も行う。

情報資源へのアクセス提供



国立国会図書館の所蔵資料やデジタルコンテンツの検索・申込に加え、全国の公共図書館・学術機関のデータベースの横断検索ができる「国立国会図書館サーチ」、震災記録のポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）」等を開発・運用し、様々な情報資源へのアクセス手段を提供する。

情報システムの開発・運用

「国会会議録検索システム」や「日本法令索引」等の立法活動に関する情報を管理・提供するデータベース、公式ホームページ、資料の収集・整理等の業務のための情報システムを開発・運用する。国会向け・一般利用者向けの各種サービスの提供と業務の遂行を、システムインフラの構築と運用により支える。



情報資源を利活用できる“場”を提供するために

島崎 憲明 電子情報サービス課
電子情報サービス調整係長（執筆時）

国立国会図書館が収集する様々な情報資源は、利活用されて、その真価を発揮できると言えます。国立国会図書館は、来館せずに情報資源を利活用できる“場”として、インターネットを通して「国立国会図書館サーチ」〈<https://ndlsearch.ndl.go.jp/>〉等の情報システムを提供しており、電子情報サービス課では、その開発や運用等を行っています。私は電子情報サービス調整係長として課内の一般事務全般を担当するとともに、立法・主題情報提供系の業務も行っています。後者について、2点ご紹介します。

まず、様々なテーマに関する調査のポイントや参考資料等の調べものに役立つ情報を提供するウェブサイト「リサーチ・ナビ」〈<https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi>〉の運用保守です。いつでもコンテンツを使えるよう、システムの安定稼働のため、例えば障害の予兆の有無等を確認します。「いつでも使える」、そんな当たり前のことを当たり前にする、地道ですが意義のある業務だと感じています。

次に、国内の図書館等と連携し、各館の利用者からの調査依頼への回答等を記録・蓄積して



担当するシステムについて不具合がないか確認



いる「レファレンス協同データベース」〈<https://crd.ndl.go.jp/>〉のリニューアル（令和6（2024）年2月に完了）です。館内外からの要望を踏まえ、デザイン刷新や機能追加等による利便性の向上を図りました。開発が進む中で各種要望が具現化される過程を経験したほか、リニューアル後、連携先の図書館等から好意的な評価をいただいたことに大きなやりがいを覚えました。

なお、これらの業務では、システムを使ってサービスを提供する部門との連携が必要不可欠です。実現したいサービスに対し、システムが対応できることには限りがあり、調整に悩むこともあります。「よりよいサービスを提供したい」との思いはみな同じですので、協力して取り組んでいます。

情報資源を利活用できる“場”への期待や需要は、今後ますます高まることでしょう。そんな“場”を提供する業務に興味をお持ちの方と、一緒に働けることを楽しみにしています。

学生時代の専攻

工学（情報理論）

Career

- H27.4 利用者サービス部科学技術・経済課
- H30.4 電子情報部電子情報サービス課
(R4.7 副主査、R5.4 電子情報サービス調整係長)
- R6.4 総務部会計課（副主査）